ご自由にお持ちください

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 秦野赤十字病院

ぴーなっつうしん

Vol.20
2023.3

令和４年１１月１９日（土）に当院をメイン会場として、神奈川県西部を震源とする最大震度７の地震災害の発生を想定した「第２ブロック支部総合訓練」が実施されました。

参加機関は赤十字各支部の他、秦野市、県内各防災機関、赤十字ボランティア他総勢約５００名を数え、当院からも救護班１班７名及び本部要員５名、訓練スタッフ１１名が訓練に参加し、非常時の対応を改めて確認いたしました。市内唯一の災害拠点病院として、今後も研修や訓練に積極的に取り組んでまいります。

ＱＲコードを読み取るとYouTubeが起動し、

訓練当日の様子が動画でご覧いただけます。

知っておきたい医療の知識　「骨粗鬆症と地域医療連携」のお話

看護部より　「認定看護師活動の展望と贈る言葉」

お知らせ　「脳卒中センターが開設されます」

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

ＱＲコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。

認定看護師活動の展望と贈る言葉

当院は、現在８領域９名の認定看護師が医療及び看護の質向上に向けその役割を発揮し、チーム医療の中心的担い手として経営的視点を持ち活躍してくれています。認定看護師は「実践・指導・相談」の３つの役割を有し、その活動は専門的な看護ケアだけでなく、コンサルテーションや看護師教育など多岐に亘り、病院の経営に大きく貢献できています。認定看護師の生き生きとした活動が、次世代の認定看護師育成に大きく関与していることは間違いありません。その結果、スペシャリストとして認定看護師を目指したいという看護師が年々増えてきたことは、大変喜ばしいことです。こうした日頃の認定看護師の活動に心より感謝申し上げます。

今後、激動の医療現場において認定看護師の果たす役割と機能は増々増大し、期待も大きくなると思います。特定行為研修等も見据え、組織が発展するための「要」として貢献できるよう自己のキャリアデザインを描きながら活躍されることを願っております。

看護部長　　江尻　昌子

当院の認定看護師

左より、桑原救急看護認定看護師、鈴木皮膚・排泄ケア認定看護師、室川緩和ケア認定看護師、佐々木感染管理認定看護師、矢巻がん化学療法看護認定看護師、内田慢性心不全看護認定看護師、相中集中ケア認定看護師、竹内摂食・嚥下障害看護認定看護師、坂本摂食・嚥下障害看護認定看護師

脳卒中センターを開設いたします！

当院は日本脳卒中学会より、「一次脳卒中センター」に認定されたことを受けて、２０２３年４月より「秦野赤十字病院脳卒中センター」を開設いたします。カテーテル治療を行うことができる当院の脳神経外科医師２名を中心に、救急科、内科をはじめとする院内各医師と密に連携し、これまで以上に多くの脳卒中患者様を受け入れ、より質の高い医療を提供する体制が整います。

脳卒中センターができるとどうなるの？

脳卒中治療において、この疾患の予後には発症から治療開始までの時間が大きく影響します。これまで救急部門と連携ルールを定めて患者様の受け入れをしておりましたが、センター化することでより多くの患者様に、より迅速な対応を行ってまいります。

また、脳卒中は後遺症が残りやすい疾患です。できる限り早い段階からリハビリテーションの導入を見据えた治療を行うことが重要です。

当センターでは多職種でチームを構成し、患者様の治療を行ってまいります。

「骨粗鬆症と地域医療連携」のお話

骨粗鬆症と脆弱性骨折

超高齢化社会を迎える我が国において、大腿骨近位部骨折、脊椎椎体骨折、橈骨遠位端骨折といった、骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折の発生件数は経年的に増加中です。秦野赤十字病院でも、毎年300件以上の骨折治療手術を実施しております。

脆弱性骨折は高齢者の生活機能を一瞬にして奪い、骨折受傷後の死亡率は1年後で20％以上、5年後で60％以上との報告もあります[1]（表1）。この事からも、骨粗鬆症は命に関わる重大な疾患である事が考えられ、骨粗鬆症の評価や治療の重要性が改めて注目されています。また、一度脆弱性骨折を起こした患者さんが別の部位の骨折（二次骨折）を起こすリスクはは極めて高まり、二次骨折を機に寝たきりになる方も少なくありません[2]。そして、骨折が原因で介護が必要となった場合、患者さん一人あたりの5年間の介護費用が1500万円を超える事も報告されています[3]。

	1年後死亡率	5年後死亡率
椎体骨折患者	約30%	約70%
大腿骨近位部骨折患者	約20%	約60%

表1　脆弱性骨折2847例の追跡調査；Johnell O. et al. Osteoporosis Int. 2004. 15:38-42

こういった背景から、骨粗鬆症に伴う骨折や二次骨折を未然に防ぐことは患者さんご本人のみならず、「ご家族」「地域社会」、また「医療経済の面」からも極めて重要です。

骨コツケアチーム（秦野赤十字病院ＦＬＳ）について

骨折予防で大切なことは、骨粗鬆症の早期発見・早期治療と治療の継続です。当院にて治療中の骨折患者さんの中にも、積極的な治療を要する骨粗鬆症を有している患者さんが多く含まれています。骨折治療に加え、継続的な骨粗鬆症ケア、二次骨折の予防を実践していくため、当院では2022年4月より骨コツケアチームを発足し、多職種（医師、看護師、薬剤師、リハビリ訓練士、栄養師、相談員など）連携を強化し診療にあたっております（図1）。チーム医療を基盤とした骨粗鬆症ケアと二次骨折予防の取り組みは、骨折リエゾンサービス（ＦＬＳ）と呼ばれています（図2）。ＦＬＳは1990年代後半にイギリスで開始され、以降、世界の国々で発展しています。日本でも2019年に、「日本版 二次骨折予防のためのＦＬＳクリニカルスタンダード」が策定され、当院の骨コツケアチームもこれに基づいてチーム医療を実践しております[4]。

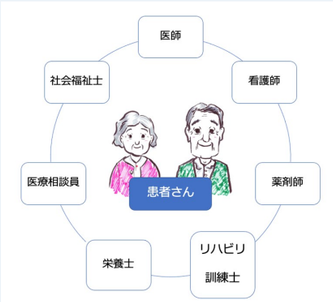


図1　骨コツケアチーム

骨粗鬆症病診連携について

当院の整形外科外来には、軽症の患者さんから、救急車で運ばれてくる重症の患者さんなど、様々な方が訪れます。そのため、外来待合は混雑し、待ち時間が長くなり、ご迷惑をおかけしている事と存じます。しかしながら当院整形外科は、この地域での役割として、入院や手術が必要な患者さんや、今すぐ治療が必要な重症の患者さんを断らず速やかに対応していく事が求められています。骨粗鬆症ケア、骨折予防の実践に際して骨コツケアチームで多職種連携医療を実践しており、継続的な骨粗鬆症ケアをすすめておりますが、新規介入患者さんは年間で150人以上に及びます。今後もケアを要する患者さんは増加していく事が想定され、増加していく患者さんの骨粗鬆症ケアを、ひとつの医療機関だけで継続・維持していくことは不可能です。そのため、骨粗鬆症病診連携が必要となります。骨粗鬆症病診連携では、当院で骨粗鬆症の評価・治療開始し、副作用など問題がなければ、治療継続のために地域の診療所やクリニックに通院いただく連携体制をとります。その後は年に1～2回実施する骨密度検査や採血検査のために当院に受診いただき、治療に関わる情報を地域の先生方と共有し、引き続き診療所・クリニックへの通院を継続いただきます（図3）。こういった連携を複数の医療機関と行うことで、骨粗鬆症ケアを開始した患者さんを、地域全体でケアを継続していく仕組みが、骨粗鬆症ネットワークです（図4）。

骨コツケアチームの今後の取り組みとして、開業医、他の急性期病院、回復期病院、療養型病院、介護施設など、機能の異なる多くの医療機関や施設との連携を重視し、強化を進めてまいります。骨粗鬆症ケアの継続を実現するため、地域医療連携について地域の皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願いいたします。

図2　二次骨折予防のためのFLSクリニカルスタンダード　（日本骨粗鬆症学会　編）

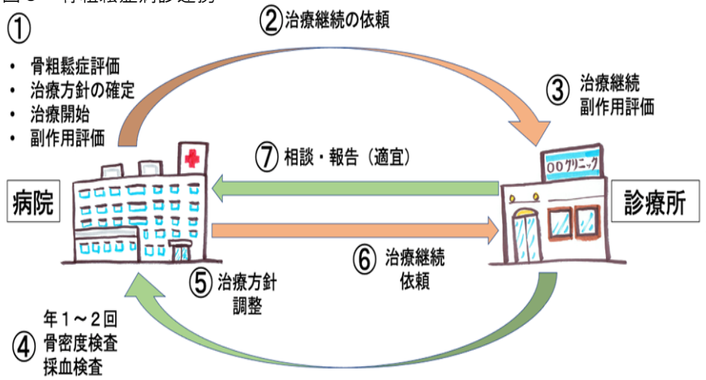


図3　骨粗鬆症病診連携

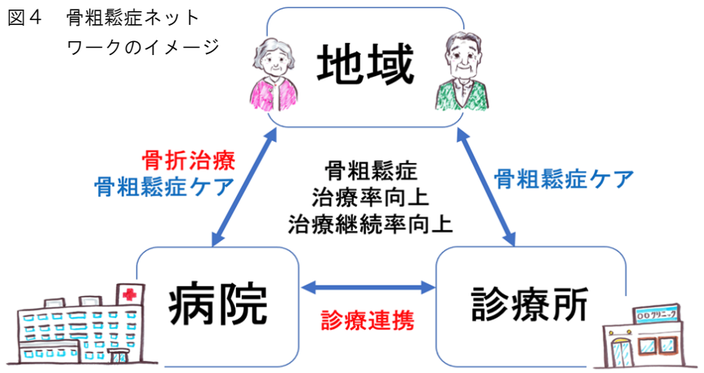
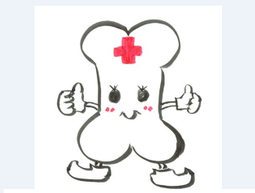


図4　骨粗鬆症ネットワークのイメージ



秦野赤十字病院FLSマスコット「コツミちゃん」

今月号の秦野日赤人

第二整形外科部長

まつやま　だいすけ
松山　大輔

〈資格・所属学会〉
日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会脊椎脊髄病医
日本整形外科学会運動器リハビリテーション医
日本整形外科学会スポーツ医
日本脊椎脊髄外科学会脊椎脊髄外科専門医・指導医
日本体育協会公認スポーツドクター
日本障害者スポーツ協会公認障がい者スポーツ医
神奈川DMAT-L隊員
難病指定医

〈参考文献〉
1）Johnell O. et al. Osteoporosis Int. 2004. 15:38-42
2）Soen S. et al. J Bone Miner Metab. 2021. Jul;39(4):612-622
3）Kobayashi S. et al. Arch Osteoporos 2022 Apr 13;17(1):64.
4）日本骨粗鬆症学会. 日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス（FLS）クリニカルスタンダード 第3版, 2020.